



渡邊 陽一郎 社長

株式会社 朝日ラバー(5162)



企業情報

市場	JASDAQ
業種	ゴム製品(製造業)
代表取締役社長	渡邊 陽一郎
所在地	埼玉県さいたま市大宮区土手町 2-7-2
決算月	3月
HP	https://www.asahi-rubber.co.jp/

株式情報

株価	発行済株式数(自己株式を控除)	時価総額	ROE(実)	売買単位	
618円	4,536,363株	2,803百万円	2.6%	100株	
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
20.00円	3.2%	52.02円	11.9倍	990.87円	0.62倍

*株価 8/12 終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE は前期実績。BPS は直近四半期末実績。

*EPS と DPS は今期の会社予想。

業績推移

決算期	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	EPS	配当
2018年3月(実)	7,534	561	589	459	101.98	20.00
2019年3月(実)	7,706	483	508	352	77.97	20.00
2020年3月(実)	7,489	325	346	126	27.91	30.00
2021年3月(実)	6,487	-92	18	113	25.06	10.00
2022年3月(予)	7,252	321	311	236	52.02	20.00

*2020年3月期の内訳は、普通配当20円、記念配当10円。

*単位:百万円、円

(株)朝日ラバーの2022年3月期第1四半期決算の概要等をブリッジレポートにてご報告致します。

目次

[今回のポイント](#)

- [1. 会社概要](#)
 - [2. 新中期経営計画](#)
 - [3. 2022 年 3 月期第 1 四半期決算](#)
 - [4. 2022 年 3 月期業績予想](#)
 - [5. 今後の注目点](#)
- [<参考:コーポレートガバナンスについて>](#)

今回のポイント

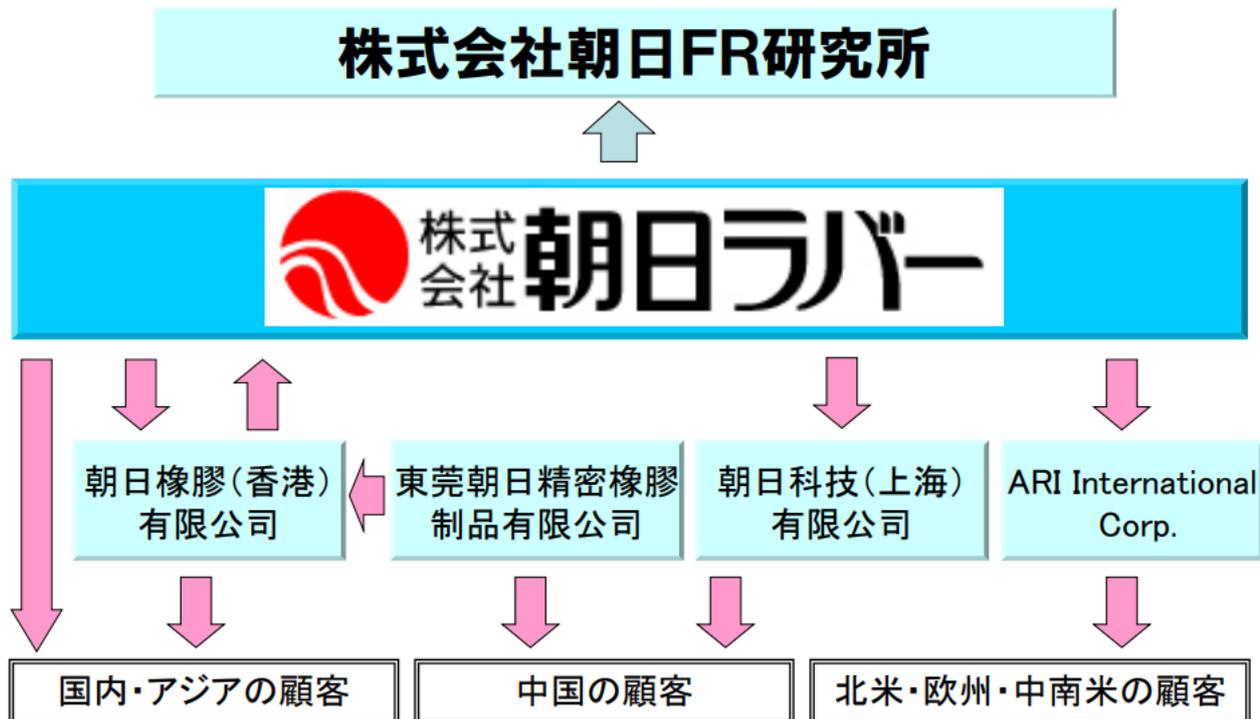
- 22/3 期第 1 四半期は前年同期比 25.7%の増収、82 百万円の経常利益(前年同期は 9 百万円の経常損失。医療用ゴム製品の在庫調整や RFID タグ用ゴム製品の受注減少が続くものの、工業用ゴム製品のうち ASA COLOR LED などの自動車向けゴム製品の受注が大きく増加したことにより、前年同期比で増収増益となった。
- 22/3 期の会社計画は、前期比 11.8%増収、3 億 11 百万円の経常利益(前期は 18 百万円の経常利益)。工業用ゴム事業の卓球ラケット用ラバーが回復基調にあることや、自動車向けゴム製品の受注見通しが好調なことから、上期と通期の業績予想が上方修正された。
配当予想は、1 株当たり 10 円増加の年 20 円(上期末 10 円、下期末 10 円)の予定を据え置き。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により抑制されていた個人消費の回復、半導体の不足の影響により減産していた自動車生産の適正化、在庫水準が低下した自動車メーカーによる在庫積み増しの動きなど、顧客である自動車メーカーによる自動車生産の拡大が期待される。ASA COLOR LED やスイッチ用ゴムなど自動車関連製品の今後の受注動向が注目される。

1. 会社概要

小型電球や LED に被せる事で様々な発色を可能にする被覆用ゴム製品を主力とする。自動車の内装用照明を中心に、携帯用通信機器、電子・電気機器、産業機器、スポーツ用等、幅広い分野で利用されている。シリコーン(ゴム状の合成樹脂)材料の配合技術と調色技術に強みを有し(色と光のコントロール技術)、シリコーンゴムに蛍光体を配合した LED 用ゴムキャップは、LED の光を波長変換して色調や輝度を調節できるため、10,000 色以上の光を出す事や LED の課題である光のばらつきを均一化する事が可能。また、医療・衛生用ゴム製品や硬質ゴムと軟質ゴムの複合製品等も配合技術を活かしてそれぞれの用途にあったゴム質を実現している。

グループは、同社の他、ゴム・プラスチック等の研究開発を行う(株)朝日 FR 研究所、米国の販売会社 ARI INTERNATIONAL CORP.、及び工業用ゴム製品の販売を手掛ける朝日橡膠(香港)有限公司、10 年 7 月に設立した工業用ゴム製品の製造・販売を手掛ける東莞朝日精密橡膠制品有限公司、及び 12 年 1 月に設立した工業用ゴム製品の開発・設計・販売を手掛ける朝日科技(上海)有限公司の連結子会社 5 社からなる。

事業系統図



(同社決算説明会資料より)

生産拠点



白河工場

電子部品対応 CR仕様

光学事業

- ・ASA COLOR LED (キャップ付きLED)
- ・シリコン製レンズ
- ・白色シリコンインキ
- ・カラーフィルター
- ・蛍光体応用製品



第二福島工場

医療ゴム製造環境 水処理仕様

医療・ライフサイエンス事業

- ・薬液混注用ゴム栓
- ・プレフィルドシリンジ用ガスケット



白河第二工場

解析・体外診断 CR仕様

医療・ライフサイエンス事業・通信事業

- ・薬液混注用ゴム栓
- ・AR超薄膜シリコンシート
- ・ARチェックバルブ
- ・マイクロ流体デバイス
- ・RFIDタグ用ゴム製品



福島工場

精密ゴム製造環境

機能事業、通信事業

- ・車載スイッチ用ラバー
- ・感圧ラバーセンサ
- ・F-TEM
- ・卓球ラケット用ラバー
- ・コネクタ
- ・伸縮配線
- ・ラバーファントム



東莞朝日精密

中国現地調達対応

機能事業、通信事業

- ・車載スイッチ用ラバー
- ・コネクタ

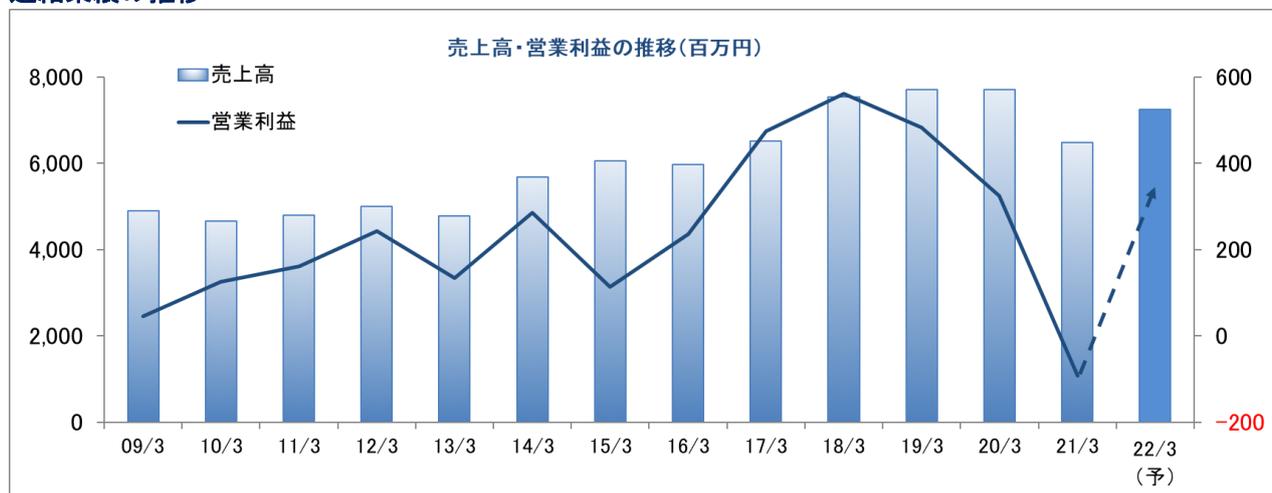
(同社 HP より)

海外拠点



(同社決算説明会資料より)

連結業績の推移



【事業内容と主要製品】

事業は、自動車のスピードメーターや内装照明の光源向けの「ASA COLOR LED」や各種センサ向けのレンズ製品「ASA COLOR LENS」、或いは弱電製品に使われる応用製品、更にはスポーツ用ゴム製品(反発弾性、高摩擦抵抗等を追及した高品質の卓球ラケット用ラバー)等の工業用ゴム事業、点滴輸液バッグ用ゴム栓や真空採血管用ゴム栓、プレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)向けガスケット等、使い捨てのディスポーザブル用ゴム製品の医療・衛生用ゴム事業に分かれ、22/3期第1四半期の売上構成比は、それぞれ84.1%、15.9%。今後は、RFIDタグ用ゴム製品、ASA COLOR LENS、医療回路製品用ゴム部品などの販売拡大が期待される。

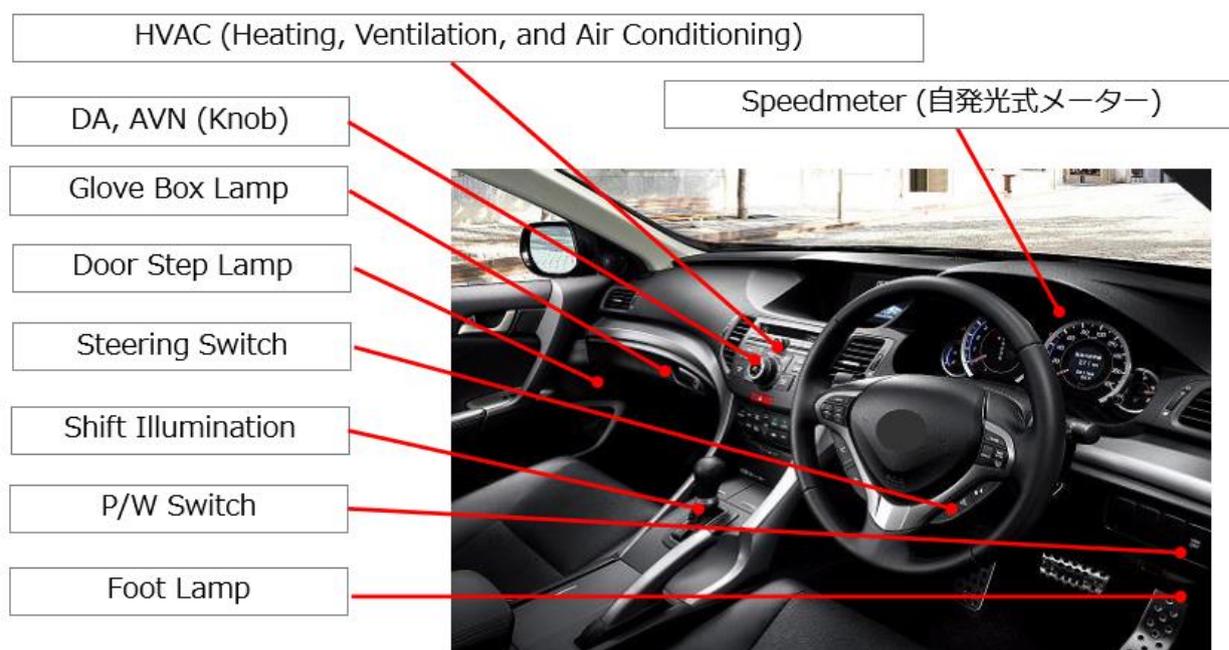
・ASA COLOR LED

ASA COLOR LED とは、LEDの光と色のばらつきを解消する商品。青色 LED に蛍光体を配合したシリコン製キャップを被せることで、自動車内装照明用に 10,000 色以上の均質な光を提供。顧客に要求される均一な色を実現している。

ASA COLOR LED のイメージ

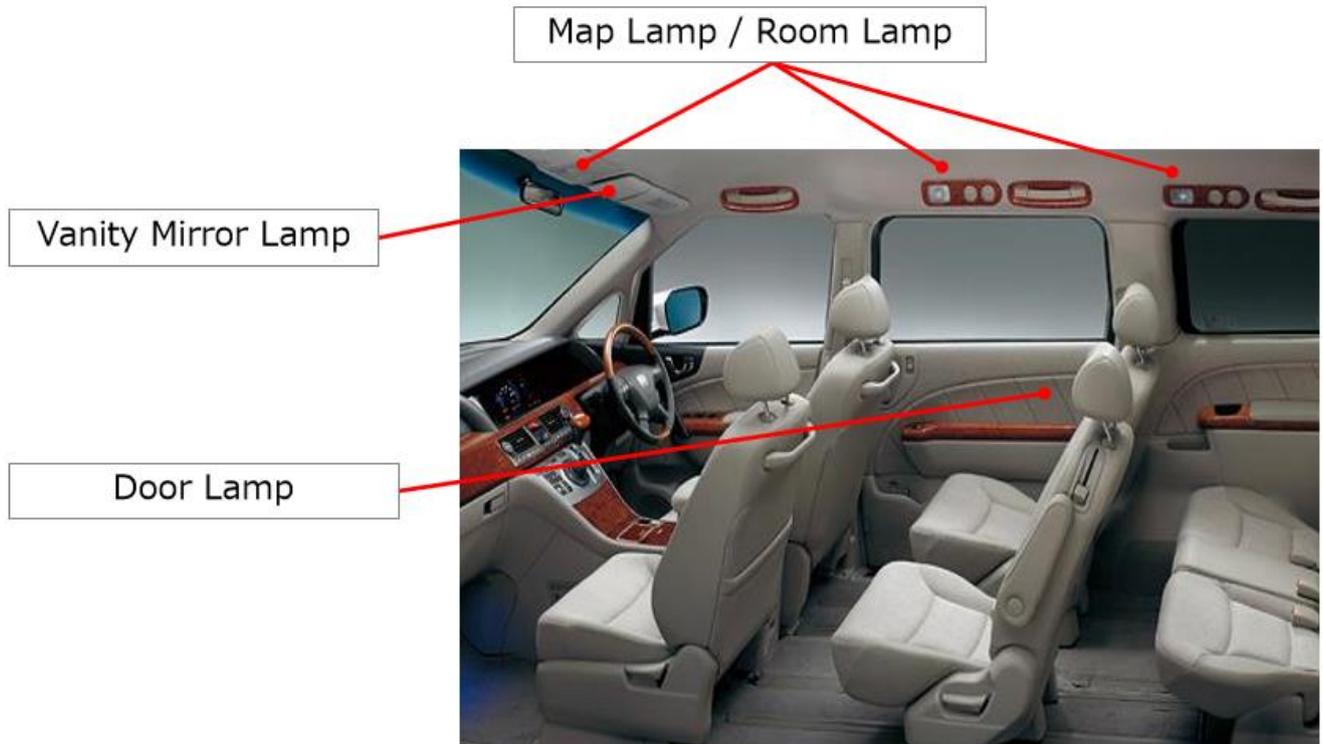


(同社決算説明会資料より)

ASA COLOR LED の採用例**自動車内装照明に応用して、安心、安全、快適性を高める。****車載インテリア照明 (インストゥルメントパネル)**

(同社説明会資料より)

車載インテリア照明 (ルーフモジュール)

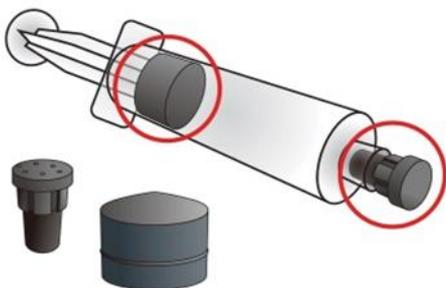


(同社説明会資料より)

・医療用ゴム製品

点滴輸液バッグ用ゴム栓、真空採血管ゴム栓、薬液混注ゴム栓、プレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)向けガスケットなど、医療現場で用いられるディスプレイ商品に使用される。安全性の高い材料を開発し、独自のコーティング技術で“漏れない”と“滑る”を両立し、注射速度の微妙な調節が可能。素材変性技術による安全性の高い材料と表面改質技術による摺動性の向上により、医療ミス防止などの安全性向上に貢献している。

プレフィルドシリンジ向けガスケットのイメージ

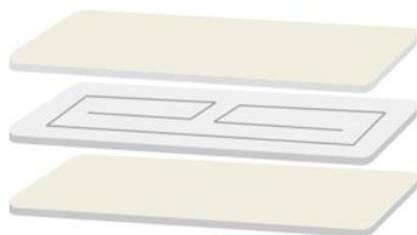


(同社決算説明会資料より)

・RFIDタグ用ゴム製品

RFIDタグ用ゴム製品は、溶剤を使わずに接着させる“分子接着・接合技術”を応用し、ICチップやアンテナ部をゴム素材で覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた、柔らかい小型のRFIDを提供。取り付ける対象がどのようなものを記憶し、認識させる機能で、今後成長が期待される認証・認識ビジネスに対応。ゴムという弾性体の特徴を生かして、RFIDが使用できなかった用途への利用が可能に。さらに応用し市場拡大を進める。

RFID タグ用ゴム製品イメージ



(同社決算説明会資料より)

・卓球ラケット用ラバー

球を高速で弾く反発弾性、強烈なスピンをかける高摩擦抵抗などを追及した高性能、高品質の製品。

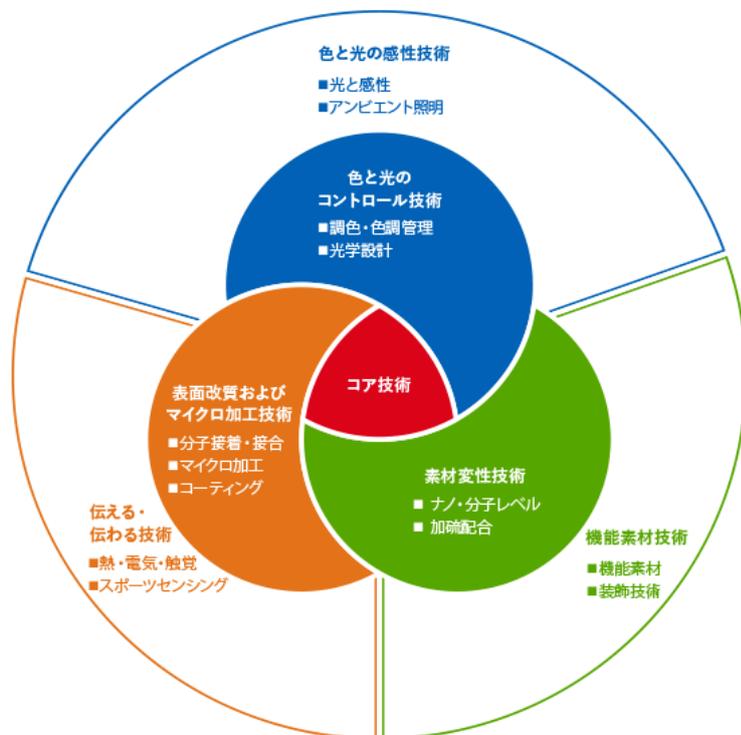


(同社HPより)

【コア技術と事業領域】

オープンイノベーションで事業領域深耕につながる研究を加速するとともに、製品化に向けた実証研究を強化する。

■ コア技術「制御&感性」



(同社 HP より)

・色と光のコントロール技術

シリコーンゴムに着色剤や蛍光体を配合し、様々な色と光を出すことのできる色調管理技術を有し、ばらつきを調整し、顧客が望む細かい色調を実現。また、透明なシリコーン樹脂を材料とし、耐熱性、対紫外線性に優れ、集光・拡散といったレンズ機能を実現。ASA COLOR LEDなどにこの技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、自動車内装、照明分野とコア技術を応用したスイッチ分野の拡大を図る方針。

・表面改質及びマイクロ加工技術

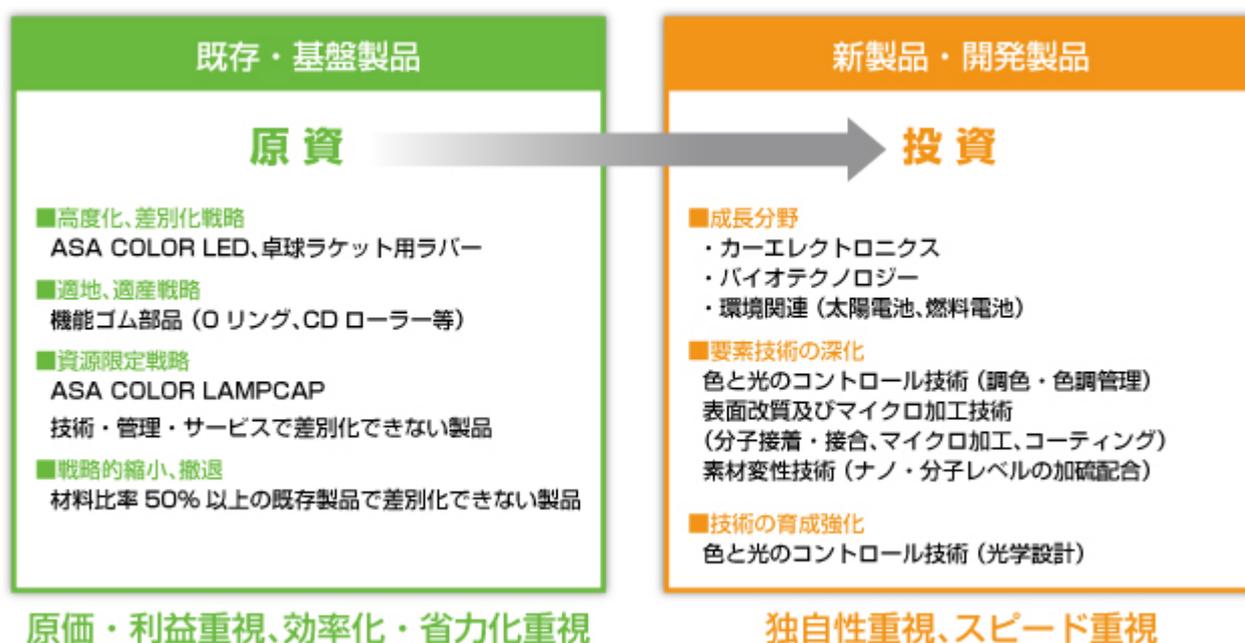
接着剤を使わずに、ゴムとゴムや金属、樹脂を接着させる分子接着・接合技術を有する。接着させる表面を改質処理し、化学反応で結合。これにより、有害な溶剤の廃棄処理が不要となり、耐熱性、耐水性もクリア。耐水性、耐候性に優れており、RFIDタグ用ゴム製品やマイクロ流体デバイスでこの技術が生かされている。また、数十ミクロンから数ミクロン単位の表面加工を行うマイクロ加工技術を確立。医療用ゴム製品である薬液混注ゴム栓の薬液注入口の形成と薬液漏れの防止や、充電して使用できる二次電池の内圧管理にもこのマイクロ加工技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、高性能製品や新たな分野を開拓する方針。

・素材変性技術

ゴムをはじめとするソフトマテリアルは、素材に添加物を配合することで求める機能を持たせることができる。更に、ナノ・分子レベルで成形することによりその機能をパワーアップすることも可能。卓球ラケット用ラバーなどにこの技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、医療分野を支える製品を提供する方針。

【強み】

同社は、固有の技術力をさらに深化させ、組み合わせることで更なる特徴を生み出すと同時に、市場の広がり顧客ニーズを分析し、製品の将来性を考慮した市場ターゲット戦略と価格戦略を組み立て、最も効率の良い生産体制を整えている。



(同社 HP より)

【ESG への取り組み】

SDGs/ESG への関心が高まるなか、改めて社会における自社の存在意義を見直した。その結果、会社は社会のためにあるべきものであり、「人を豊かにしてグローバル社会貢献度が高い技術会社」という将来像を見据えた、2030年までの長期ビジョン「AR-2030VISION」を定め、SDGs/ESG を経営の軸に置くことをより明確にした。また、世界共通の目標である SDGs 達成のためにはさまざまなパートナーとの共創が不可欠と考え、「ステークホルダー・エンゲージメントを高める」という行動指針を定めた。

長期ビジョン「AR-2030VISION」の下、「サステナビリティビジョン 2030」に沿って、グローバルな社会課題の解決に挑戦する企業を目指す。

「サステナビリティビジョン 2030」実現のため、環境・社会に関する各種基本方針の下、取り組むべき環境・社会目標、KPI を設定した。目標、KPI に関する進捗は毎年報告する。

◎環境環境(方針・実績/KPI)

環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、「環境にやさしいものづくり」をスローガンとして、地球環境保全と社会への貢献を目指して活動する。

BRIDGE REPORT



■「サステナビリティビジョン2030」KPI(環境)

	KPI	
	2022年度	2029年度(～2030年3月)
CO ₂ 削減	2013年度比6%削減	2013年度比30%削減
電気使用量	700万kWh	520万kWh
環境負荷物質低減	法令違反ゼロ	法令違反ゼロ

■実績(環境)

	2019年度	2020年度
CO ₂ 削減	2013年度比0.4%削減	2013年度比1.9%削減
電気使用量	725万kWh	676万kWh(○)
環境負荷物質管理	法令違反ゼロ	法令違反ゼロ

◎・・・2029年度(～2030年3月)目標を前倒して達成

○・・・2022年度目標を前倒して達成

(同社ウェブサイトより)

◎社会(方針・実績/KPI)

働きがいのある職場環境で従業員一人ひとりが生き生きと活躍することで、顧客が満足できる製品を提供し続ける。

■「サステナビリティビジョン2030」KPI(社会)

	2029年度(～2030年3月)
健康診断受診率	100%
健康診断結果後の再検査受診率	50%
ストレスチェック受検率	100%
働きがい度指数※	73以上
年次有給休暇取得日数(平均)	15日以上
離職率	3%
顧客満足度(売上上位20社)	「満足」「やや満足」で90%以上

■実績(社会)

	2019年度	2020年度
健康診断受診率	97%	100%(◎)
健康診断結果後の再検査受診率	45%	24%
ストレスチェック受検率	100%	100%(◎)
働きがい度指数※	71	71.6
年次有給休暇取得日数(平均)	13.1日	9.0日
離職率	4.2%	1.3%(◎)
顧客満足度(売上上位20社)	84%	84%

◎・・・2029年度(～2030年3月)目標を前倒して達成

※ 働きがい度指数:働きがい度調査は年に一度、全従業員を対象に、5段階のうちから選択する形式の調査です。働きがい度数として、5段階評価で3以上を付けた方の割合としています。

(同社ウェブサイトより)

2. 新中期経営計画

同社は、中期経営計画を策定するにあたり、「私たちは人を豊かにしてグローバル社会貢献度が高い技術会社になる」ことを未来に通ずる姿とし、朝日ラバーらしい価値を磨き、独自の製品開発による成長を描くため、2030年を見据えたビジョンを「AR-2030VISION」を定めた。具体的な内容は、以下の通り。

【AR-2030VISION】

弾性無限の創造で持続的な価値向上が繋がる社会に貢献する企業へと成長し続ける。弾性無限への挑戦。

【経営基盤】

CSR/ESG 経営を重視し、グローバルな社会課題に挑戦する企業へと邁進します。

【行動指針】

ステークホルダー・エンゲージメントを高めること。

【技術基盤】

制御&感性へーゴムが有する無限の可能性に感性技術を加えて QOL 向上を目指しますー

独自の競争力の源泉となるコア技術は、色と光のコントロール技術、素材変性技術、表面改質およびマイクロ加工技術としている。それらコア技術に対して新たに感性技術を融合させ、現実世界・サイバー空間がシームレスにつながる世界において、それぞれの事業分野における「人と機械(システム)のつながり」を成長の視点と捉え、新たな価値の創造をもって社会課題の解決に挑む。

【事業基盤】

重点4事業分野へー事業価値を高め続けて10年後にありたい姿の実現を目指しますー

これまでの重点3事業分野(車載・照明事業、医療・ライフサイエンス事業、その他事業)について社会が求める2030年の環境から見つめ直すとともに、将来に「実装化」が想定されるテクノロジーを見通しながら、光学事業、医療・ライフサイエンス事業、機能事業、通信事業の重点4事業分野に集中して10年後にありたい姿の実現を目指す。

第13次三か年中期経営計画

同社は、AR-2030VISIONの実現に向けて、最初のステージの2023年3月期までの2020年4月～2023年3月を第13次中期三か年として、中期計画および単年度計画を策定した。中期経営方針として「誠実で機敏な対応力で岩盤を築き質的に成長する」を掲げ、中期経営戦略として、①事業が貢献する機会を増やして密着し、素早く課題を解決する技術で経験と実績を積み上げる、②CSR/ESG経営へ進化させると定め、最終年度である23/3期に、数値目標である連結売上高80～90億円、連結営業利益率8%以上を目指す。環境の変化による影響を考慮しながら成長を続ける目標とするため、売上高目標は範囲を持って設定するとともに、利益については、売上高に影響を及ぼす市場環境の変化に対応しながらも、質的成長を目指すことから、連結営業利益率を目標指標とした。また、設備投資計画は、21/3期～23/3期累計で約10億円。20/3期までに進めてきた設備投資や環境整備による生産体制充実と、更に新製品・開発製品に注力し、案件を早期に立ち上げるための開発投資を進める予定である。

(1) 重点事業分野の取り組み

光学事業(主要製品: ASA COLOR LED、シリコン製レンズ、白色シリコンインキ、カラーフィルター、蛍光体応用製品など)

20/3期の連結売上高約35億円に対し、23/3期の売上高は40億円を計画。「感性、共感」をキーワードに、色と光を制御する技術と感性技術を磨き、自動車の内装照明市場から外装照明、またアンビエント照明※に向けた技術開発と提案を進める。また、海外の顧客へのアプローチをさらに進めていくため、自動車産業向けの品質マネジメントシステムであるIATF16949の認証を白河工場にて2020年11月に取得した。

※アンビエント照明とは、室内の環境照明、または全般照明の総称。



(同社中期経営計画資料より)

医療、ライフサイエンス(主要製品:採血用・薬液混注用ゴム栓、AR超薄膜シリコンシート、ARチェックバルブ、プレフィルドシリンジ用ガスケット、マイクロ流体デバイスなど)

20/3期の連結売上高約12億円に対し、23/3期の売上高は約15億円を計画。診断・治療分野、理化学機器分野、介護・予防分野に向けて制御技術と感性技術を磨き、世界の医療現場と患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献する。また、医療機器産業に向けた提案力を高めるため、医療機器の品質管理システム構築のための国際標準規格であるISO13485の認証について、白河第二工場においてこの中期経営計画中の取得を目指す。

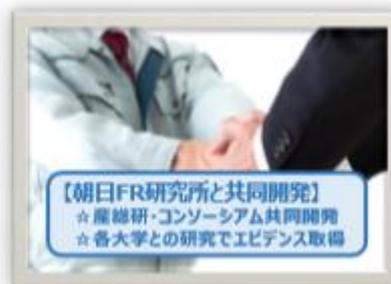


(同社中期経営計画資料より)

機能事業(主要製品:車載スイッチ用ラバー、感圧ラバーセンサ、F-TEM※、卓球ラケット用ラバー、気流制御電極など)

20/3期の連結売上高約18億円に対し、23/3期の売上高は21億円を計画。ビークル分野、エネルギー分野、環境発電分野、スポーツ分野において制御技術と触覚・熱・振動・光関連の技術、感性技術を磨き、将来のライフスタイルの実現への貢献に向けて、弾性無限で人に優しい感性価値を提供する。

※F-TEM(Flexible Thermos Electric Module)とは、ゴムならではの柔軟性を持った同社独自のペルチェデバイス。



(同社中期経営計画資料より)

通信事業(主要製品:RFIDタグ用ゴム製品、ビーコン、コネクタ、伸縮配線、ラバーファントムなど)

20/3期の連結売上高約9億円に対し、23/3期の売上高は12億円を計画。自動認識分野、通信機器分野、センシング分野において、伝える・伝わるセンシング技術、触覚・熱・振動・光関連の技術、感性技術を磨き、ゴムだからこそ実現できる価値を提供する。



(同社中期経営計画資料より)

(2) 海外展開

同社グループは、顧客の要望に応えるため最適なロケーションとして、アメリカと中国に販売子会社と生産子会社を設置している。重点事業分野に向けて同社の価値をこれまでよりも広く認知してもらうため、積極的に海外市場へのアプローチを進めて、価格競争ではなく、顧客に密着した活動により独自の価値を提供して、顧客満足度の向上を図り販売拡大に結び付ける方針である。

海外拠点図



【販売拠点】

- ① アメリカ：ARI ② 中国：東莞・上海 ③ 香港

(同社 HP より)

その他、同社は新中期経営計画の経営戦略に掲げる「CSR/ESG 経営に進化させる」の達成に向け、サステナビリティビジョン 2030 を 2020 年中に策定する予定である。今後もステークホルダーとの対話を通じて企業価値の向上を目指す方針である。

3. 2022年3月第1四半期決算

(1) 連結業績

	21/3 期 第 1 四半期	構成比	22/3 期 第 1 四半期	構成比	前年同期比
売上高	1,430	100.0%	1,797	100.0%	+25.7%
売上総利益	293	20.5%	417	23.2%	+42.3%
販管費	320	22.4%	339	18.9%	+5.8%
営業利益	-27	-	78	4.3%	-
経常利益	-9	-	82	4.6%	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	-20	-	61	3.4%	-

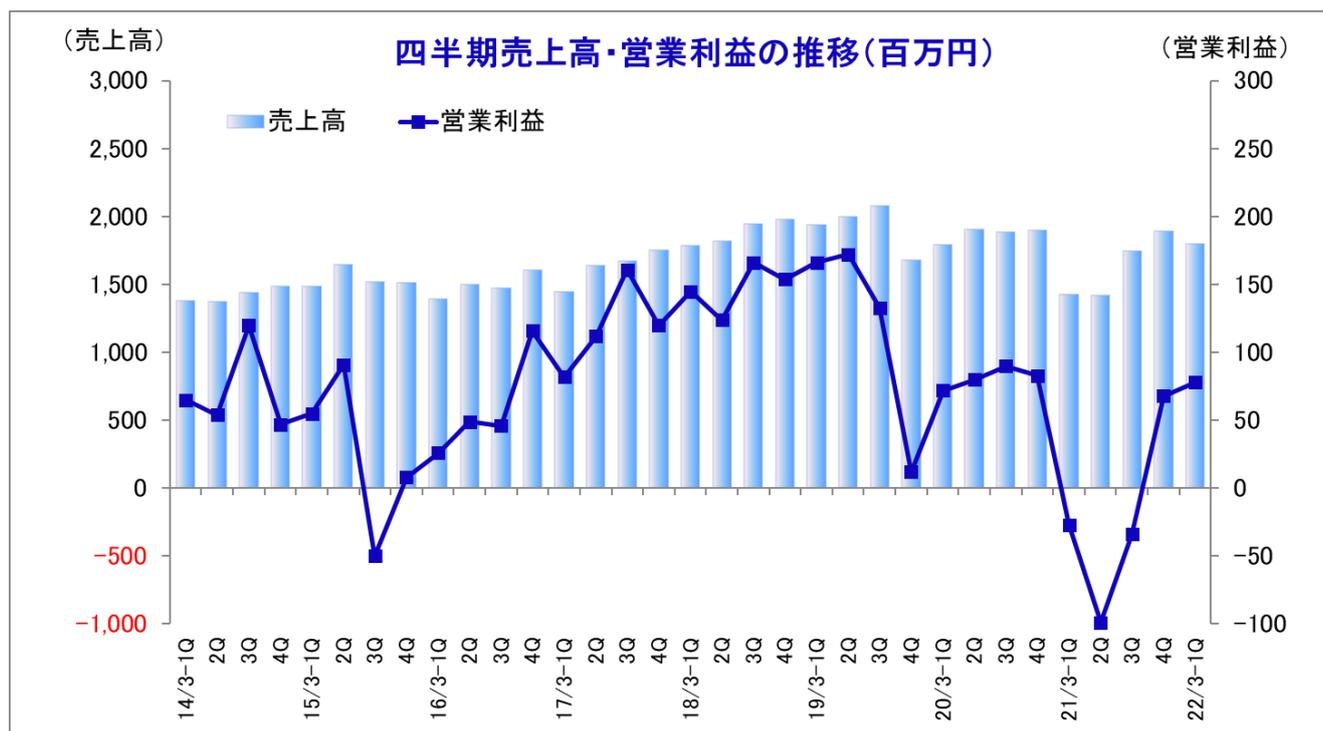
* 単位: 百万円

前年同期比 25.7%の増収、82 百万円の経常利益

売上高は、前年同期比 25.7%増の 17 億 97 百万円。売上面では、工業用ゴム事業の売上高が前年同期比 36.8% 増加。前年同四半期に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けていた ASA COLOR LED などの自動車向け製品全般の売上高が回復した。医療・衛生用ゴム事業の売上高は同 11.9%の減少となった。プレフィルドシリンジガセット製品が、前期下期より引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で医療診断の変化等による在庫調整の影響を受け受注が減少した。

利益面では、経常利益が82百万円の経常利益(前年同期は9百万円の経常損失)となった。売上高が増加した工業用ゴム事業は、同2,939.2%の増益となった一方、売上高が減少した医療・衛生用ゴム事業は同47.6%の減益となった。こうした中、78百万円の営業利益(前年同期は27百万円の営業損失)となった。収益性の高い自動車向け製品の売上高の増加等が寄与し、売上総利益率は、23.2%と同2.7ポイント上昇した。合理化により販管費の増加を抑制したことにより、売上高販管費率も3.5ポイント低下した。また、営業外収益で補助金収入5百万円計上があったことなどにより、経常利益は82百万円(前年同期は9百万円の経常損失)となった。その他、特別損益な大きな計上はなかった。

四半期業績の推移



22/3期第1四半期(4-6月)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた前年同期を売上高、営業利益ともに大幅に上回った他、回復傾向を強めた前四半期(1-3月)並みの高水準の売上高、営業利益を維持した。
※15/3Qと4Qは、取締役2名逝去による役員退職慰労引当金繰入額等の特殊要因が影響。

(2)セグメント別動向

セグメント別売上高・利益

	21/3期 第1四半期	構成比	22/3期 第1四半期	構成比	前年同期比
工業用ゴム事業	1,105	77.3%	1,511	84.1%	+36.8%
医療・衛生用ゴム事業	325	22.7%	286	15.9%	-11.9%
連結売上高	1,430	100.0%	1,797	100.0%	+25.7%
工業用ゴム事業	4	8.7%	134	84.6%	+2,939.2%
医療・衛生用ゴム事業	46	91.3%	24	15.4%	-47.6%
全社費用	-78	-	-81	-	-
連結営業利益	-27	-	78	100.0%	-

*単位:百万円

事業別売上高(中期事業分野別)

	21/3期 第1四半期	構成比	22/3期 第1四半期	構成比	前年同期比
光学	540	37.8%	822	45.8%	+52.2%
医療・ライフサイエンス	324	22.7%	291	16.2%	-10.5%
機能	408	28.6%	530	29.5%	+30.2%
通信	155	10.9%	152	8.5%	-2.2%
連結売上高	1,430	100.0%	1,797	100.0%	+25.7%

* 単位: 百万円

光学事業は、ASA COLOR LED の受注が自動車市場の需要増加により増加したことが寄与し売上高が増加した。医療・ライフサイエンス事業は、医療用ゴム製品の一部製品で在庫調整が続き売上高が減少した。機能事業は、卓球ラケット用ラバーの受注の減少が継続したものの、スイッチ用ラバーなどの自動車向けゴム製品の受注が大きく増加したことから売上高が増加した。通信事業は、RFID タグ用ゴム製品の受注の減少が北米市場での新型コロナウイルス感染症拡大による影響で継続したことから売上高が若干減少した。

国内・海外別売上高

	21/3期 第1四半期	構成比	22/3期 第1四半期	構成比	前年同期比
国内	1,094	76.5%	1,381	76.9%	+26.2%
海外	335	23.5%	416	23.1%	+24.1%
アジア	298	20.9%	384	21.4%	+28.9%
北米	33	2.4%	26	1.5%	-20.5%
欧州	2	0.2%	4	0.2%	+59.8%
合計	1,430	100.0%	1,797	100.0%	+25.7%

* 単位: 百万円

国内売上高は前年同期比 26.2%増加、海外売上高も規模の大きいアジアの増加が寄与し同 24.1%増加した。

主力製品の売上推移

	20/3期		21/3期				22/3期	前年同期比
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
ASA COLOR LED	815	801	501	582	779	849	761	+51.9%
医療用ゴム製品	309	293	322	292	274	248	283	-12.0%
卓球ラケット用ラバー	88	104	98	51	67	92	90	-7.8%
RFID タグ用ゴム製品	130	172	113	126	133	103	94	-17.0%

* 単位: 百万円

ASA COLOR LED は、前期第4四半期に比べて減少しているが、売上計上のタイミングによるものであり、受注回復傾向は継続している。医療用ゴム製品は、一部製品の在庫調整が続いているものの受注が回復傾向にある。卓球ラケット用ラバーは、昨年後半の受注減少から受注が回復基調にある。RFID タグ用ゴム製品は、最終顧客である北米市場において新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け需要が低迷し、受注の減少傾向が継続している。

(3) 財政状態及びキャッシュ・フロー

財政状態

	21年3月	21年6月		21年3月	21年6月
現預金	2,903	2,863	仕入債務	437	492
売上債権	1,706	1,616	短期有利子負債	1,099	1,045
たな卸資産	821	928	流動負債	2,898	2,985
流動資産	5,706	5,705	長期有利子負債	1,992	1,746
有形固定資産	3,707	3,623	固定負債	3,011	2,769
無形固定資産	86	83	純資産	4,430	4,484
投資その他	840	837	負債・純資産合計	10,341	10,250
固定資産・繰延資産	4,634	4,544	有利子負債合計	3,091	2,792

* 単位: 百万円。有利子負債=借入(リース債務含まず)

21年6月末の総資産は21年3月末比91百万円減の102億50百万円。資産サイドではたな卸資産などが増加したものの、現預金、売上債権、有形固定資産などが減少した。負債・純資産サイドでは、仕入債務、電子記録債務などが増加したものの、短期と長期の有利子負債などが減少した。21年6月末の自己資本比率は、43.9%と期末から1.1ポイント上昇した。

(4) 上期業績予想の上方修正と上期業績予想に対する第1四半期実績の進捗状況

22/3期 第2四半期	5月13日時点		8月6日時点		
	見通し	構成比	見通し	構成比	増減率
売上高	3,531	100.0%	3,578	100.0%	+1.3%
売上総利益	778	22.0%	831	23.2%	+6.8%
営業利益	74	2.1%	127	3.6%	+71.6%
経常利益	75	2.1%	123	3.4%	+64.0%
四半期純利益	54	1.5%	90	2.5%	+66.7%

* 単位: 百万円。

第1四半期実績と現時点での見通しから第2四半期の見通しが上方修正された。

	22/3期 第1四半期	22/3期 上期会社予想	進捗率
売上高	1,797	3,578	50.2%
売上総利益	417	831	50.2%
営業利益	78	127	61.4%
経常利益	82	123	67.4%
四半期(当期)純利益	61	90	68.0%

* 単位: 百万円。

22/3期第1四半期は、上期の会社計画に対して、売上高で50.2%、売上総利益で50.2%の進捗率であるものの、営業利益は61.4%、経常利益は67.4%の高い進捗率となっている。自動車向けの好調は続く見込みであるものの、保守的な第2半期の計画となっている。

4. 2022年3月期業績予想

(1) 連結業績

	21/3期	構成比	22/3期	構成比	前期比
売上高	6,487	100.0%	7,252	100.0%	+11.8%
売上総利益	1,254	19.3%	1,753	24.2%	+39.7%
販管費	1,347	20.8%	1,432	19.7%	+6.3%
営業利益	-92	-	321	4.4%	-
経常利益	18	0.3%	311	4.3%	+1,602.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	113	1.8%	236	3.3%	107.4%

* 単位: 百万円

22/3期は、前期比11.8%の増収、同1,602.8%の経常増益予想

同社は、8月6日に22/3期の会社計画の上方修正を行った。新しい会社計画は、売上高が前期比11.8%増の72億52百万円、経常利益が同1,602.8%増の3億11百万円。売上面では、ASA COLOR LEDをはじめとする自動車用ゴム製品の売上高増加に加え、卓球ラケット用ラバーの受注も回復する見込み。工業用ゴム事業で前期比14.0%増加する計画。また、医療・衛生用ゴム事業も医療用ゴム製品の一部製品の在庫調整が緩やかに回復傾向となる見込みで同1.4%の増加を予想している。

利益面でも、売上高が増加する工業用ゴム事業が営業利益の増加を牽引する見込みである。売上総利益率は、前期比4.9ポイント上昇の24.2%、売上高対販管費率は、同1.1ポイント低下の19.7%の会社前提。この結果、営業利益は3億21百万円(前期は92百万円の営業損失)となる見込み。売上高営業利益率は、4.4%の予想。その他、営業外損益と特別損益において大きな計上の予定はない。

配当予想は、1株当たり10円増加の年20円(上期末10円、下期末10円)の予定を据え置き。連結配当性向は38.4%となる。

セグメント別売上高(中期事業分野別)

	21/3期	構成比	22/3期	構成比	前年同期比
光学	2,890	44.6%	3,212	44.3%	+11.1%
医療・ライフサイエンス	1,206	18.6%	1,182	16.3%	-2.0%
機能	1,759	27.1%	2,271	31.3%	+29.1%
通信	631	9.7%	586	8.1%	-7.1%
連結売上高	6,487	100.0%	7,252	100.0%	+11.8%

* 単位: 百万円

光学事業は、ASA COLOR LEDの受注増加が牽引し売上高の増加が続く見込み。医療・ライフサイエンス事業は、医療用ゴム製品の一部製品の在庫調整は緩やかに回復傾向となる見込み。機能事業は、自動車市場の回復を受けてスイッチ用ゴムなどの受注が増加することに加え、卓球ラケット用ゴムラバーの受注も徐々に回復する見込み。一方、通信事業は、RFIDタグ用ゴム製品の受注の減少が継続する前提。

主要製品の売上計画

	21/3 実績	22/3 (当初計画)	22/3 (修正計画)	前提・方針
ASA COLOR LED	2,712	3,119	2,999	・自動車市場の回復傾向に伴い、受注が回復する見通し。 ・今年度は、自動車市場のグローバル動向の先行きに不透明感がある。
医療用ゴム製品	1,138	1,115	1,055	・採血用・薬液混注用ゴム栓の受注は堅調に推移。 ・一部の用途の製品の在庫調整は下期から徐々に回復する見込み。
卓球ラケット用ラバー	309	356	381	・競技の再開により徐々に受注は回復傾向。 ・東京五輪開催による効果が見込めるものの新型コロナウイルス感染症の状況で不透明感がある。
RFID タグ用ゴム製品	476	362	384	・北米市場の回復が見通せず、受注は低水準で推移する見通し。 ・収益認識基準の変更により、売上高が前期比で約1億円減少する見込み。

* 単位: 百万円

設備投資計画

	20/3 実績	21/3 実績	22/3 会社計画
設備投資	948	266	280
減価償却費	497	507	470

* 単位: 百万円

設備投資計画は、2億80百万円(前期2億66百万円)の予定。事業分野別内訳は、光学事業95百万円(同59百万円)、医療・ライフサイエンス事業55百万円(同75百万円)、機能事業1億円(同54百万円)、通信事業30百万円。光学事業は、ASA COLOR LEDの工法開発とシリコンレンズの生産設備増強を計画。機能事業は、自動車用ゴム製品の受注増加に対応する生産設備の増強を計画している。また、法人別では、同社単体で2億円40百万円(全事業)、東莞朝日精密橡膠製品40百万円(機能事業)の予定。

(2) 通期業績予想の上方修正と通期業績予想に対する第1四半期実績の進捗状況

22/3 期 通期	5月13日時点		8月6日時点		
	見通し	構成比	見通し	構成比	増減率
売上高	7,181	100.0%	7,252	100.0%	+1.0%
売上総利益	1,711	23.8%	1,753	24.2%	+2.5%
営業利益	283	3.9%	321	4.4%	+13.4%
経常利益	281	3.9%	311	4.3%	+10.7%
四半期純利益	210	2.9%	236	3.3%	+12.4%

* 単位: 百万円。

工業用ゴム事業の卓球ラケット用ラバーは回復基調にあることや、自動車向けゴム製品の受注見通しが好調なことから、同社は8月6日に通期の会社計画の上方修正を実施した。

	22/3 期 第1四半期	22/3 期 通期会社予想	進捗率
売上高	1,797	7,252	24.8%
売上総利益	417	1,753	23.8%
営業利益	78	321	24.3%
経常利益	82	311	26.7%
四半期(当期)純利益	61	236	25.9%

* 単位: 百万円。

22/3 期第1 四半期は、通期の会社計画に対して、売上高、各段階利益ともに 25%前後となっている。自動車向けは好調が続くものの、下期以降の見通しに不透明感があることから保守的な通期予想となっている。

(3) 22/3 期の経営方針と経営戦略

【経営方針】

みんなにうれしさをお届けしよう。

【経営戦略】

- ① 事業の魅力を高めて出口をつかむ。
- ② 気づきを高めて課題を解決する。
- ③ ESG 経営を推進する。

5. 今後の注目点

主力 ASA COLOR LED やスイッチ用ゴムなど自動車関連製品の回復が勢いを増している。今後も新型コロナウイルス感染症拡大により抑制されていた個人消費の回復、半導体の不足の影響により減産していた自動車生産の適正化、在庫水準が低下した自動車メーカーによる在庫積み増しの動きなど、顧客である自動車メーカーによる自動車生産の拡大が期待される。しかし、同社では下期以降の見通しの不透明さを考慮し保守的な会社計画を策定している。自動車業界を取り巻く外部環境を考えると果たして下期にそのような厳しい状況になるのか疑問ではあるが、上方修正された通期予想が再度上方修正される可能性が残されている。同社の顧客である自動車メーカーの今後の生産動向に加え、ASA COLOR LED やスイッチ用ゴムなど自動車関連製品の受注動向が注目される。

一方、好調な自動車関連製品の受注とは裏腹に医療用ゴム製品や卓球ラケット用ラバーや RFID タグ用ゴム製品は受注の回復が遅れている。医療用ゴム製品や卓球ラケット用ラバーについて回復の芽が出てきているようであるが、今後の回復の勢いに不透明さが残る。RFID タグ用ゴム製品においては北米市場の回復が見通せず、低水準の受注が予想されている。収益性の高い医療用ゴム製品や卓球ラケット用ラバーや RFID タグ用ゴム製品の受注がいつの時期から本格的な回復に転じるのか注目される。

<参考:コーポレートガバナンスについて>

◎組織形態、取締役、監査役の構成

組織形態	監査等委員会設置会社
取締役	7名、うち社外2名

◎コーポレートガバナンス報告書

最終更新日: 2021年6月30日

「当社は、JASDAQ 上場企業としてコーポレートガバナンス・コードの基本原則をすべて実施しております。」と記載している。

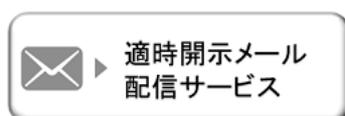
＜コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づいて開示している主な原則＞

原則	開示内容
【株主以外のステークホルダーとの適切な協働】	<p>年二回行っている社内での方針説明会、また毎月全社員を対象に行っている月例報告会で、健全な事業活動倫理を尊重する精神について、様々な角度と表現で伝えていきます。また、地域の経済同友会などに加盟し、他企業と交流を深めることで情報収集を行い、社内に展開しております。</p> <p>特に重視しているのは社内のオープンなコミュニケーションです。いろいろな意見を出せる環境、聞く環境を整えていくことで、ステークホルダーを尊重する企業風土を醸成していけると考えております。</p>
【株主との対話】	<p>当社 WEB サイトで中期経営計画をわかりやすく公開しています。また、個人投資家向けのページでは、会社の目指す方向やトップメッセージなどを紹介しています。決算説明会は当社の重点施策について社長が直接説明し、当日の状況は WEB サイトにて動画配信しております。</p> <p>なお、2021年3月期確定決算の説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、オンライン配信のみといたしました。</p>

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

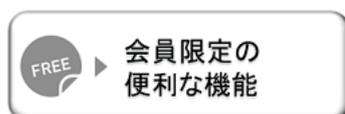
Copyright(C) Investment Bridge Co.Ltd. All Rights Reserved.

ブリッジレポート(朝日ラバー:5162)のバックナンバー及びブリッジサロン(IRセミナー)の内容は、www.bridge-salon.jp/ でご覧になれます。



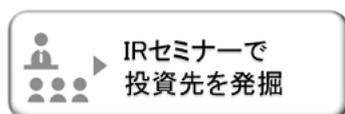
同社の適時開示情報の他、レポート発行時にメールでお知らせいたします。

[>> ご登録はこちらから](#)



ブリッジレポートが掲載されているブリッジサロンに会員登録頂くと、株式投資に役立つ様々な便利機能をご利用いただけます。

[>> 詳細はこちらから](#)



投資家向け IR セミナー「ブリッジサロン」にお越しいただくと、様々な企業トップに出逢うことができます。

[>> 開催一覧はこちらから](#)